

■肢体不自由支援学校における実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用拡大をめざして

東京都立八王子東特別支援学校
須田 暢子

本校は、肢体不自由の児童生徒が通う特別支援学校です。平成24年度より、わいわい文庫利用研究校となりました。伊藤忠記念財団から貸与されたタブレット端末（iPad1台、iPod10台）を使ってマルチメディアDAISY図書を活用しています。

昨年度までの取り組み

(1) 研究テーマ

- ①マルチメディアDAISY図書は、学校の中ではどのように活用できるか
- ②マルチメディアDAISY図書は、どのような子どもたちに有用か



DAISYが再生可能なタブレット

(2) 研究実践

①通常時のDAISY

上肢の操作性に困難さがあり、本

を持ったり、ページをめくれない子どもたちが、スクールバスに乗車する時、担任に「デージー、セットしてください」と依頼し、通学時の読書を楽しむことができました。

②DAISY教科書

上肢の操作性と見え方に困難さを抱えており、紙媒体の本を読むことに心身ともにストレスを感じていた子どもたちが、マルチメディアDAISY教科書を使用することで、本を読むことのストレスが軽減され、家での予習や授業での学習に意欲的に取り組むようになりました。

③認知学習でのDAISY

個別学習の場面でも、子どもたちの実態や状況に合わせて、色、文字の大きさ、スピードなどをカスタマイズしながら活用することで、文字を読めるようになるなど、学習効果を高めることができました。

④みんなでDAISY

休憩時間やすきまの時間を使い、大型テレビにiPodを接続して、マル

チメディアDAISYで絵本を楽しむ事例を実践しました。結果として、上肢の操作性に困難がある子どもたちにとって、マルチメディアDAISYを活用することは、読書、教科学習、余暇などの活用において有効性を確認することができました。

(3) 成果と課題

昨年度までの取り組みの中で、読書の形はさまざまであること、またマルチメディアDAISYが子どもたちの読書に対するさまざまな困難に対して、応えることができることを明らかにしてきました。

しかし、マルチメディアDAISYの有用性を見出しながらも、なかなか活用拡大の周知がむずかしい、使用者が広がらないといった課題が浮き彫りになりました。

そこで、今年度は新たなマルチメディアDAISYの活用法を探るとともに、周知の問題を中心課題として取り上げ、取り組むことにしました。

今年度の取り組み

さて、マルチメディアDAISYの認知度について、あまり広まってはいないと感じていたので、実際どれだけの人が理解し活用しているのか、またどのような点で広まるのがむずかしいのかを明らかにするために、アンケートを実施しました。

(1) マルチメディアDAISY図書に関するアンケート

(平成26年4月実施。本校教員60名中40名回答)

① デイジー図書を知っていますか？

◎ はい…35名

どのくらい？

→ 名前くらいは 22名

再生はできる 7名

使用できる・使用している 6名

× いいえ…5名

② 今まで使ったことがありますか？

どのくらい使いましたか？

◎ 使ったことがある…17名

どのくらい？

→ 説明会で触った程度 8名

試しに数回 6名

頻繁に 3名

× 使ったことはない…23名

③ 使ってみたい児童生徒はいますか？

◎ いる…16名

△ 特にいない…4名

× わからない…18名

④ 研修会があったら何を知りたいですか？（複数回答可）

・ デイジー図書とは何か…12名

・ デイジー図書の操作方法…22名

・ デイジー図書の機能…16名

・ デイジー図書が有効な児童生徒とは…14名

・ 具体的な活用方法…21名

このアンケートから見えてくるこ

とは、

- ・マルチメディアDAISY図書はなんとなく知っているが、どのように使えばいいのかわからない。
- ・どんな子どもたちに有効なのかわからない。
- ・具体的にどのように使えばいいのかわからない。

という実態でした。そして、わいわい文庫利用研究校3年目の本校ですら頻繁に使っている教員は少ないという、悲しい現実を目の当たりにしました。

(2) どうして広まりにくいのだろう？

このような結果を受けて、ではマルチメディアDAISYが広がらない理由は何だろうか？ということさらさら具体的に考え直していくことにしました。

現場からはよくこのような声を聞きます。

- ・機械ってむずかしそう…
- ・接続とかめんどくさいんでしょ？
- ・準備するのが大変
- ・忙しいのに使っている暇なんてないよ
- ・どのような場面で使えるかわからない
- ・iPodでは画面が小さいな…

機械というだけで敬遠されがちなことに加え、授業と授業の間の休み時間でさえも、子どもたちの排せつや水分補給、連絡帳、次の授業の準備

など時間に追われている教員にとって、ぎっしりのタイムスケジュールの中に新たな活動を加えるということは現実的に厳しいことが想像できます。

また、貸与されたタブレット端末は、iPad 1台、iPod10台ということもあり、iPodのようなサイズの小さいものは通学バスでの読書などに向いていますが、校内で使うとなると画面が大きいもののほうがよいという意見が出ていました。

子どもたちにマルチメディアDAISY図書を効果的に提供できるようにするためには、まず大人がマルチメディアDAISYについて知り、使用できることが大切になってきます。では、教員への普及を阻んでいるものは一体何なのでしょう。

(3) 教員の実態にも寄り添ってみよう

本来ならば、子どもたちの読書に対する困難さがあり、それに対応する形として支援がなされるのが理想的ですが、かといって忙しい教員に新たに読書場面を設定してくださいと言い出しにくいのも事実です。であるならば、今までの生活の中に読書機会に置き換えられる部分はないものか、教員に負担をかけずに読書機会を設けることはできないものかを考えました。

まずは子どもたちだけでなく、教員に向けてのマルチメディアDAISY図書の講習会を年度当初に開きました。講習会の中では、先述のアンケートで希望の多かった項目を中心に、取り上げて説明を行っていききました。

しかし、普通に説明しただけでは、また普及しないであろうことは予想できたので、①操作が簡単なこと、②マルチメディアDAISY図書を使うことで教員が助かることの2点を強調し、使いやすい・使ったほうがいいというイメージを広めることを試みました。

具体的には教員向けの説明会を開き、①に関してはiPad、iPodの操作を実際に一緒に行いながら説明を行



教員向け研修会

いました。また、大型テレビに映す時も、ケーブル1本さえつなげれば可能であり、準備や操作に手間がかからないことを説明しました。

②に関しては、マルチメディアDAISYを図書を使うことでむしろ教員が助かる場面をいくつかピックアップして説明しました。

例えば、個別課題学習の時間です。当然のことながら、教員が複数の子どもたちの指導を行う場面があります。時には1対1でじっくり指導したい場面もありますし、指導内容が異なれば一度に指導はできません。教員は複数の子どもたちを一度に指導するために、子どもたちが一定時間一人で学習できる工夫をさまざまに行っていますが、むずかしい場面もあります。かといって、ひとりで課題に取り組める子どもたちばかりでもありません。そんな時に、児童生徒が一人で学習できるよう、自習としてマルチメディアDAISY図書で読書を行う方法を提案しました。

これまで自習がむずかしいと思われていた子どもたちでも、iPadがあれば一人で読書することが可能になりますし、教員も子どもたちにとってもいいことづくめです。

さらに、休み時間などに大型テレビにマルチメディアDAISY図書を映し出して集団で見るという方法も提案し

ました。これなら少ない大人で子どもたちを把握できますし、手の空いた教員はそのほかの作業や活動（連絡帳や授業準備、特別に子どもたちを取り出してかかわるなど）に時間を割くことができます。もちろん子どもたちにとっても読書時間として有効に時間を活用することができます。このように、まずはマルチメディアDAISY図書に対する使いにくいイメージを払しょくし、活用することで子どもたちだけでなく教員も時間を有効活用できる点を強調しました。

そして、伊藤忠記念財団から貸与されたタブレット端末のほかに、学校のiPad 9台にもVOD（ボイス オブ デイジー）を入れ、マルチメディアDAISY図書が再生できるようにしました。つまり、学校内にマルチメディアDAISY図書が再生できる端末がiPad10台、iPod10台になり、さらに使うまでのハードルが低くなるよう環境を整えました。

取り組みの結果

とにかく少しでもマルチメディアDAISY図書を使ってみようかな、と思ってもらうためにさまざまな試行錯誤を行ってきましたが、その結果はどうなったのか。

平成26年度11月の時点で、貸し出し数は125です。平成24年度の貸し出

し数が90で、平成25年度の貸し出し数が79だったことをかんがみると、少しはマルチメディアDAISYが校内に広がってきたといえるのかもしれませんが。教員向けの講習会後には、「早速使ってみたよ！」という声をいただいたり、貸し出し簿に新しく名前が加わった教員がいたりとうれしい変化がありました。と同時に「本の表紙が表示されて見やすくなるといい」「再生回数がカウントされるといい」という前向きな意見も出ていました。



自習



集団でDAISY鑑賞

最後に

少しずつではありますがマルチメディアDAISY図書という存在を認知されつつある本校において、今後どのような方向で取り組んでいくべきでしょうか。活用が広がっていかない要因として、アンケート以外のものもあります。それは毎年の教員の異動です。特に本校はここ数年毎年20名前後の異動があり、これは3年で教員が総入れ替えになるほどの数です。だからこそ、教員へのレクチャー、啓蒙活動は絶えず必要であることを痛感しています。まずは使用され始めたマルチメディアDAISY図書を今後も特別なものではなく、現場において当たり前前に使用するもの、教員のニーズだけでなく、子どもたち一人ひとりに合った読書ツールとしてのマルチメディアDAISY図書の提供、という意識

にまで到達できるように普及を目指していくことだと考えています。

そして、校内のデジタル環境を整え、マルチメディアDAISY図書だけでなく、マルチメディアDAISY教科書、電子図書リーダーなどさまざまなツールを用意して、多様なニーズに応えられるようにしていくことも必要です。

さらに、デジタルコンテンツだけでなく、紙の本も含めてどのような子どもにはどのような媒体が適切なのかを考え、子どもたち各々に合った読書スタイルを提供できることを目指すことが課題であり、今後の方向性であると考えています。

最後になりますが、マルチメディアDAISY図書の製作にかかわるすべての方々に感謝を申し上げ、結びと代えさせていただきます。